

令和6年度1回亀岡市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

□ 日 時 令和6年8月29日（木） 14時00分～16時00分

□ 場 所 亀岡市庁舎 3階 302・303会議室

□ 出欠状況

出席委員 安藤 委員、金田 委員、松本 委員、猪子 委員、西山 委員、山口 委員、
野々村 委員、岩崎 委員、石田 委員、法貴 委員、木寺 委員、吉田 委員、
原田 委員（13名）

欠席委員 安田 委員、伏見 委員（2名）

事務局 こども未来部 12名（部長、次長、子育て支援課、こども家庭課、保育課）
教 育 部 3名（部長、社会教育課）
オブザーバー 1名（株式会社サーベイリサーチセンター大阪事務所）

□ 傍聴者 1名

1. 開会
2. 開会挨拶
3. 委員紹介
4. 議題

（1）亀岡市子ども・子育て支援事業計画 施策・事業の実施状況

・資料1に基づき説明（事務局）

（2）第3期亀岡市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査結果概要について

・資料2に基づき説明（事務局）

（3）第3期亀岡市子ども・子育て支援事業計画の施策体系（案）等について

・資料3・資料4-1～6に基づき説明（事務局）

<質疑応答>

□ 要 旨

・議題（1）についての質疑応答・意見交換

【委 員】公立幼稚園が幼保連携型の認定こども園に移行するにあたり、0歳・1歳児の受け入れが難しいと聞いた。地区によっては0歳・1歳の待機児童が多い中、まだ受け入れ態勢が整っていない状態で認定こども園に移行された理由をお聞きしたい。また、0歳・1歳児に対する保育士不足の問題もあると聞いているが、人手が足りない中での配置も含めて確認したい。

【事務局】亀岡市立幼稚園の認定こども園への移行について、実際に移行するのは来年度になる。移行することは決定しているので、現在整備等を進めているところである。受け入れ児童の年齢は満3歳からの予定である。0歳・1歳を受け入れるには施設整備が大規模となり、予算も多くかかるため、2歳児の待機児童を減らすためにも満3歳児からと設定している。

認定こども園の年齢設定については、必ず0歳から受け入れないといけないわけではなく、施設ごとで設定できることとなっている。当面の2歳児の待機児童を減らす、また、3歳児からの11時間の教育・保育ニーズに対応するため、認定こども園への移行を進めているところである。

【委員】0歳・1歳を全く受け入れていない保育園がある。満3歳児からとなると私立幼稚園と全く同じである。そもそも足りている施設をもう一つ加えたともえなくもない。0歳・1歳が取れないフルスペックの保育園があることは、待機児童対策のやり方として不思議にみえる。

【事務局】0歳児の設定があるにも関わらず受け入れができていない理由としては、保育士確保が難しかったことがある。保育の人材確保が大きな課題となっており、民間園も大変苦勞されているところである。それに向けての対策として、今年度から奨学金の返還支援補助金制度を設け、市から京都府内の養成校を回って周知しバックアップしているところである。

【委員】亀岡市立幼稚園が幼保連携型の認定こども園に移行するのであれば、その施設の目的や機能が十分に発揮されないと見込み違いになる。幼稚園・保育園・認定こども園の本来の機能がどうあるべきかがあるが、満3歳児からになると、幼稚園と極めて近い施設になる。運営者や市民にとってどのように見えているか違和感を感じる。

【事務局】保護者の幼児期教育も含めた保育ニーズが多様化してきている中で、幼稚園だと朝9時から午後2時までの基本の枠がある。一時預かりもしつつ、もう少し長い時間預かってもらえたら助かるというニーズも多い。また、今の時代の保育ニーズにできるだけ応えられる園であるためには、より低年齢児から受け入れられるような運営がされるべきであるが、既存の施設をどう有効活用していくかを考えた時に、0歳・1歳児を受け入れるとなると大幅な改修が必要になるため、既存の建物を有効活用しながら認定こども園化を図ろうとしているところである。

【委員】認定こども園に移行するにも関わらず、0歳・1歳・2歳児の受け入れがないことは、かなり不思議にみえる。

【事務局】もっと長い時間預かって欲しいとのニーズがあるからこそ、そこに応えたい。待機児童対策としても0～2歳児もできる限り受け入れたいが、その分、企業主導型保育園や保育士確保、新たな小規模保育園の取組を進めていきたいと考えている。もちろん亀岡市立幼稚園も受入人数を増やすことができれば良いが、現状においては難しい。国の基準に基づいて施設整備を進めており、できる限りの待機児童対策に取り組んでいることはご理解いただきたい。

【委員】0・1・2歳については、今の亀岡市立幼稚園の施設のままで受け入れができないとのことだが、受け入れ体制を整えば、来年から0・1歳の受け入れを実施するのか。

【事務局】令和7年4月からこども園としてスタートするので、今、体制整備しているところである。

例えば、給食は、自園調理の提供が基本となるが、給食調理に係る施設整備は、国の基準に基づき整備する。0・1・2歳を受け入れについては、施設整備に相当な費用がかかることと人材確保が難しいことなどがあり、現状においては実施しないとしている。

【委員】私学の民間の立場からすると、こども園に移行するのであれば、給食調理施設の整備と、0歳や1歳を受け入れることがセットというのが通常で、そうでない考え方はあまり民間にはない。新設して、名前が変わり、幼稚園から認定こども園に変わり、教育と福祉を兼ね備えた施設となっている。0歳から1歳を受け入れないということが、市民の方や私たち専門家、施設を運営している者としても普通セットで開始すべきではないかと思う。

【委員】時間外保育事業について、子どもが保育園の3歳児と0～1歳児クラスに通っている。9時～16時が短時間保育で、18時になると延長保育になる園だが、毎月のように短時間保育から延長保育に時間を延ばす保護者が増えている。そんな中、可能であれば16時までにお迎えに来てほしいという案内があった。3年間そのようなお知らせは、きたことがなかった。経済的な事情で短時間保育から延長保育に移行したい保護者が多いのではないか。4月入所で書類を出して、例えば短時間保育で申請し、その後に標準保育となると、延長保育の保育士が足りなくなってしまうのではないかという意見も聞く。資料には、「今後も引き続き利用者のニーズに合わせた受け入れ体制の整備が必要です」とあるが、どうしても4月時点とそれ以降のギャップが生じると思う。

【委員】小規模保育園が令和7年から開設予定とのことで、民間委託を考えていると思うが、定員がどれくらいか、0～1歳児の待機児童はどれくらい解消できる見込みがあるのか教えてほしい。

【事務局】小規模保育施設を令和7年度から開設するため、現在事業者の選定を進めているところである。定員については条例で定められており、1園につき最大19人になる。その中で事業者が年齢別の定員を設定することになるが、市としては、できる限り0～1歳児の定員を多くしてもらえるように働きかけている。

【委員】施策番号9番のファミリー・サポート・センターの取組で、去年からセンターのかめおかっこ広場にて、ファミサポの利用体験会として、まずは広場でお願い会員のお子さんを任せて会員がみる体験会を定期的に実施されている。ファミリー・サポート・センターを利用したいけど不安を感じている人もいると思うので、こういう公の場で利用できることは良い機会だと思う。引き続きお願いしたい。

・議題（2）（3）についての質疑応答・意見交換

【委員】資料3の③「子育てにおける経済的負担」とあるが、5～10年前に生まれた子どもと、保育料無償化実施以降に生まれた子どもでは各種手当等の充実もあり保護者の負担は全

然違う。その中で、「経済的な負担や日頃悩んでいる」ということが保育料のことなのか、塾代や高等教育等の教育費のことなのか、定義として何を指しているのか分かりづらい。

また、これまでは子育てと言えば親支援がメインだったところ、こども家庭庁が設立され、こども大綱にも示されるように子育てに伴う喜びを実感できる社会環境の整備についても謳われている。純粋に子どもの最善の利益を考えてくれると思うが、今後施策にどう落とし込まれていくのか教えてもらいたい。

併せて、仕事と子育ての両立支援とあるが、子育てとキャリアが両立できるような施策としてもう一步踏み込むためには企業の方々の協力も必要だと思う。

【事務局】 亀岡市では「子どもファースト宣言」に基づく各種施策について、他市に先行して取り組んでいる。これまでとこども大綱が示す大きな違いは、家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感することが大切という基本理念が示されていることであり、京都府とも連携しながら施策を実施している。今回、子ども・子育て支援事業計画を一度更新した上で、令和12年に今回の計画や子どもの貧困対策計画と組み合わせた「こども計画」の策定を目指して進めていく予定である。子どもファースト宣言による子ども施策・事業をしっかりと実施する中で、これまでの保護者への支援から子どもに直接支援ができる形に移行していくことになる。

【委員】 ニーズ調査アンケートの有効回答率が4割程度というのは、どのくらいの信頼度があるものなのか。

【オブザーバー】 統計的な信用度については、具体的な数字でいうと384サンプル以上の回答があれば妥当であり、今回の439件、422件という回収数は妥当であると言える。

【委員】 質問数が多く、みんな最後まで書いて提出してくださっているか疑問だったが、有効回答数が信頼度のあるものとのことで安心した。

また、アンケート結果をみると「雨の日に遊べる場所がない」の回答は減っている。近年では、「かめまるランド」など、雨の日に小さい子ども連れでも遊べる室内施設ができたので、数値が下がったのではないかなと思う。ただ、確かに近くに遊び場がないことは事実なので、行ける人は行けるが、行けない人は行けないギャップがまだまだあると感じた。

併せて、今後も継続して調査を実施していくのであれば、もう少し質問数を減らすと回答率が上がるのではないかなと思う。また、京都府では回答者へ抽選で図書券プレゼント等があったので参考にしていきたい。

【委員】 保育や教育を施された側が大人や社会に対してどう感じて評価するのかという視点は大事だと思う。質問項目に、「保護者に自分が愛されていると思うか」という質問があるのは少し気がかりではある。

【事務局】 表現方法については学校の指導主事の先生方からもご意見を聞きながら調整の上、実施したい。

【委員】聞き方で随分左右されると思う。できるだけ子どもの真の声が汲み取れるようなアンケートの取り方をしてほしい。

【委員】お住まいの地域を聞く意味は、どういうところにあるのか。

【事務局】本市は市域が広く、市街地、農村地、山間地と分かれる。人口が多い地域もあれば、少ない地域もあるので、地域の特徴を汲み取って反映できればと考えている。

【委員】「人材」の発想が抜けているように思っている。先ほど待機児童の話もあったが、待機児童はいるが、保育士が集まらないから保育所の定員を減らしたという事例もある。また、放課後児童クラブも人材がいらないという話をよく聞く。計画に事業はあるが、それを支える人がいない。サービスの充実とともに、人材についても並行して考えていく必要がある。今までは人材確保と言うと質のことを言っていたと思うが、今は量の問題もある。そこも併せて今後各自治体で検討していく必要があると思う。

(4) その他（事務局からの報告）

- ・事務局より、今後の会議スケジュール予定について説明
（質疑なし）

5. 閉会